病 防 第 447 号
令和８年 10 月 29 日

関係機関長　殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
（ 公 印 省 略 ）

病害虫発生予察注意報について

令和８年度病害虫発生予察注意報第 10 号を発表したので送付します。

令和８年度　病害虫発生予察注意報　第 10 号

１　作物名　　キク類

２　病害虫名　　アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ）

３　発生地域　　沖縄本島、伊江島、久米島

４　注意報発令の根拠

10 月に実施した沖縄本島の露地小ギクほ場における調査の結果、アザミウマ類の発生ほ場率は 100％（平年値 : 95.7%）、葉当たり虫数は 0.58 頭（平年値 0.13 頭）と平年より多かった（図１、２）。また、伊江島では中発生、久米島では多発生であった（防除員報告）。今回発生が確認されたアザミウマは各島ともに主にクロゲハナアザミウマであった。

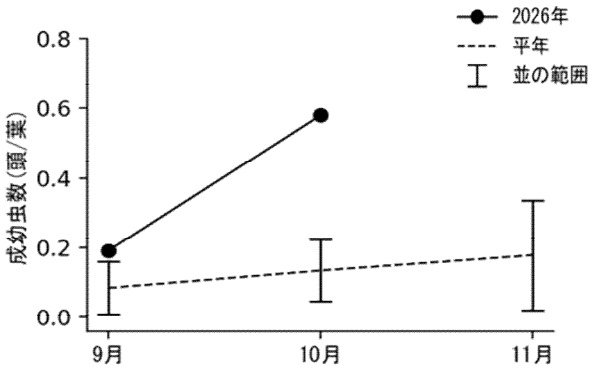


図１　アザミウマ類の発生推移

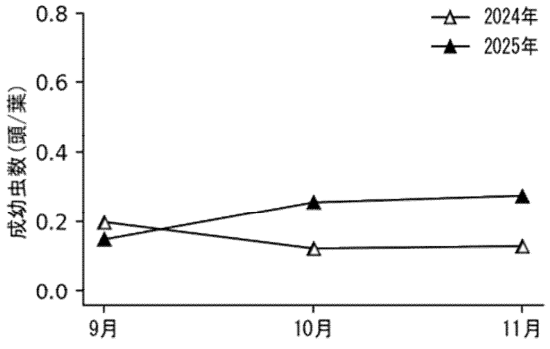


図２　アザミウマ類　過去２年間の推移

５　発生生態および被害

（１） 葉を加害するアザミウマ類は、本県では主にクロゲハナアザミウマで（図３）、その他にミナミキイロアザミウマ等である。アザミウマ類の成虫は葉に産卵し幼虫とともに葉に生息、幼虫は土壌表面に落下し蛹化する。比較的乾燥条件下で多発しやすい。

（２） 25℃条件下での卵～羽化までの日数は、クロゲハナアザミウマで約 15 日、ミナミキイロアザミウマで約 14 日となっている。

（３） クロゲハナアザミウマの被害は葉の両面に現れるが（図４）、主に葉裏に被害が多く、茶色のかすり状になる。またハダニ類の被害と類似する。

（４） ミナミキイロアザミウマは主に新葉を加害するため展開葉の奇形化や、葉表にケロイド症状が現れる。

６ 防除対策および注意すべき事項

（１） 苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、親株での防除を徹底する。
（２） 定植時に粒剤を施用し、栽培初期から防除を行う。
（３） 採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後すみやかに片付ける。
（４） 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
（５） 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
（６） 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。
（７） 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同系統薬剤の連用を避ける。薬剤防除後はその効果を確認し、次回防除の薬剤選定を行う。



図３　クロゲハナアザミウマ成虫


図４　クロゲハナアザミウマによる葉の被害

★詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933
ホームページアドレス　：　https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html